

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年9月18日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

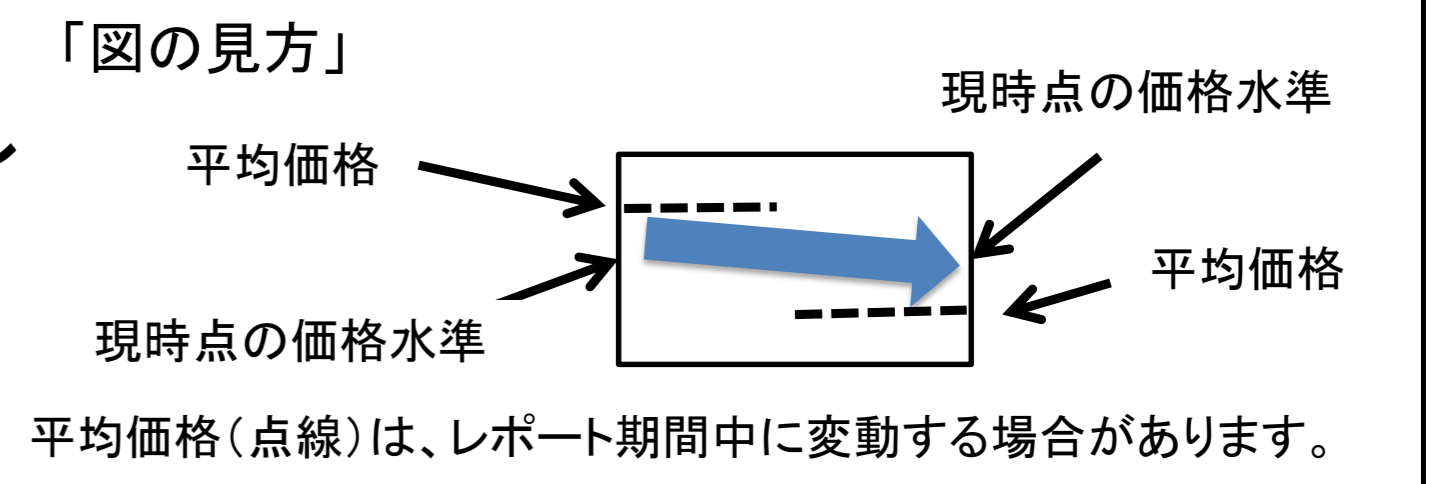
種類	8月の価格情報			9月の価格情報		9月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月末までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	中旬					
葉茎菜類	キャベツ	77.90	93 (119%)	78 (100%)	77.90	71 (91%)	・12.625t (97%)	群馬(73)	群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 8月に入って徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		88.91	97 (109%)	81 (91%)	88.91	74 (83%)	・4.736t (62%)	群馬(67)、長野(29)		
	たまねぎ	102.67	102 (99%)	94 (92%)	81.54	97 (119%)	・5.251t (71%)	北海道(93)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育が遅延して一部が小玉傾向、その後の高温・少雨で現在平年を下回る出荷となっている中、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 府県産の流通在庫が徐々に減少する中で現在平均並みになっている価格は、今後は北海道産の出荷が今般の地震の影響による一部の滞留も解消に向かうものの、平年を下回ると見込まれることから、平均を上回って推移する見込み。	
		102.67	105 (102%)	98 (95%)	81.54	96 (118%)	・2.649t (64%)	北海道(63)、兵庫(33)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	437 (152%)	347 (121%)	287.00	372 (130%)	・1.825t (84%)	青森(26)、秋田(18)	青森産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、高温・少雨により生育が遅延している中で、台風21号の影響で病害の発生や倒伏により正品率が下がっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、秋田産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		462.77	667 (144%)	662 (143%)	462.77	738 (159%)	・128t (88%)	香川(36)、徳島(19)		
	はくさい	86.06	103 (120%)	97 (113%)	86.06	96 (112%)	・4.793t (103%)	長野(82)	長野産は、少雨の影響により生育が遅延していたものの、最近の適度な降雨により生育が回復していることから、現在平年を下回る出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。	
		88.72	107 (121%)	99 (112%)	88.72	93 (105%)	・2.509t (77%)	長野(100)		
	ほうれんそう	583.95	762 (130%)	770 (132%)	583.95	729 (125%)	・404t (100%)	群馬(33)、栃木(21)	群馬産及び栃木産は、8月の高温で播種が遅れ、また、発芽不良も散見される中、最近の曇天で生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 群馬産及び栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		670.86	835 (124%)	826 (123%)	670.86	831 (124%)	・152t (58%)	岐阜(71)		
	レタス (結球)	158.27	107 (68%)	117 (74%)	158.27	130 (82%)	・5.586t (103%)	長野(79)	長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 8月に入って徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		152.57	101 (66%)	123 (81%)	152.57	141 (92%)	・1.828t (66%)	長野(92)		
果菜類	きゅうり	232.28	371 (160%)	389 (167%)	232.28	384 (165%)	・4.347t (102%)	福島(27)、群馬(14)	福島産は、7月中旬以降の高温・少雨により樹勢が低下している中で、最近の曇天で生育が遅延していることに加え、台風21号により擦れ果などが発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。群馬産は、最近の曇天で生育が遅延していることに加え、台風21号により擦れ果などが発生していることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年を下回る出荷の見込み。	
		244.44	368 (151%)	402 (164%)	244.44	389 (159%)	・1.190t (60%)	福島(25)、北海道(24)		
	トマト (大玉)	265.08	380 (143%)	451 (170%)	265.08	459 (173%)	・4.172t (96%)	北海道(17)、青森(16)	北海道産及び青森産は、6月以降の低温・日照不足で樹勢が低下している中で、最近の夜温低下で着色が遅れていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産及び青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		298.46	370 (124%)	432 (145%)	298.46	487 (163%)	・1.620t (65%)	岐阜(38)、北海道(33)		
	なす	242.04	255 (105%)	299 (124%)	242.04	366 (151%)	・2.074t (93%)	群馬(37)、栃木(31)	群馬産及び栃木産は、台風21号による擦れ果などが発生していることに加え、最近の曇天により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 群馬産及び栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		232.81	257 (110%)	269 (116%)	232.81	329 (141%)	・535t (45%)	山梨(29)、徳島(18)		
	ピーマン	276.76	515 (186%)	497 (180%)	276.76	449 (162%)	・1.324t (116%)	茨城(41)、岩手(35)	茨城産は、7月中旬以降の高温・少雨で樹勢が低下しているものの、気温の低下に伴い着果数は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、7月中旬以降の高温・少雨で樹勢が低下していることに加え、最近の曇天及び低温で生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		296.27	493 (166%)	500 (169%)	296.27	457 (154%)	・448t (67%)	青森(31)、大分(19)		
	根菜類	だいこん	94.60	112 (118%)	98 (104%)	94.60	106 (112%)	・3.050t (66%)	北海道(64)、青森(33)	北海道産及び青森産は、6月下旬以降の長雨で播種が遅延したことから、現在平年を下回る出荷となっているものの、遅延して播種されたものは順調な生育となっていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 北海道産は、今般の地震の影響による一部の滞留も解消に向かう中で出荷が平年並みと見込まれ、青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。
			90.60	107 (118%)	93 (103%)	90.60	100 (110%)	・1.418t (55%)	北海道(68)、岩手(12)	
		にんじん	123.08	127 (103%)	131 (106%)	123.08	136 (110%)	・3.293t (81%)	北海道(98)	北海道産は、6月下旬以降の長雨で播種ができなかった期間のもの出荷期間となってくることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が、今般の地震の影響による一部の滞留も解消に向かうものの、平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	123.11		126 (102%)	129 (105%)	123.11	138 (112%)	・1.399t (58%)	北海道(99)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23~28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25~29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価額は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

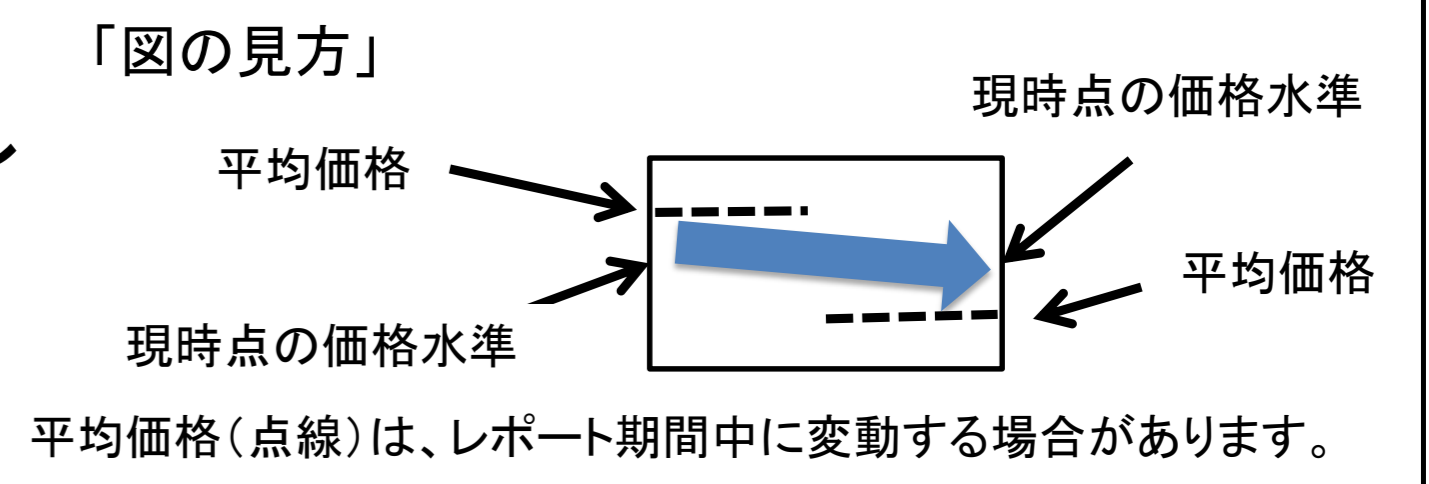
種類	8月の価格情報			9月の価格情報		9月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月末までの見通し
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			
		中旬	下旬					
いも類	さといも	280.27	436 (156%)	328 (117%)	280.27	285 (102%)	・286t (89%)	千葉産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育が遅れていたものの、その後の適度な降雨により生育が回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		242.12	266 (110%)	249 (103%)	242.12	195 (81%)	・74t (66%)	
	ばれいしょ	117.36	107 (91%)	122 (104%)	117.36	123 (105%)	・3,236t (84%)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 府県産の流通在庫が徐々に減少する中で、現在平均並みになっている価格は、北海道産の出荷が、今般の地震の影響による一部の滞留も解消に向かうものの、平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。
		117.36	124 (106%)	139 (118%)	117.36	128 (109%)	・1,555t (63%)	



注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	8月の価格情報			9月の価格情報		9月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	9月の主産地	生育及び価格の9月末までの見通し
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			
		中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	384.87	577 (150%)	561 (146%)	384.87	596 (155%)	・275t (77%)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育や定植が遅延している中で、7月中旬以降の高温で病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。長野産は、7月中旬以降の高温・少雨の影響により生育不良となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が、今般の地震の影響による一部の滞留も解消に向かうものの、平年を下回ると見込まれ、また、長野産の出荷も平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		412.22	558 (135%)	568 (138%)	412.22	588 (143%)	・116t (92%)	



注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。